

第3次奈良市食育推進計画（案）



奈良市

第3次奈良市食育推進計画（案）

～目次～

はじめに	1
第1章 第3次奈良市食育推進計画について	3
1. 計画について	3
(1) 策定趣旨	3
(2) 理念と基本方針	4
(3) 計画の位置づけ	5
(4) 計画期間	5
(5) 関係機関による推進体制と目指す方向性	6
(6) 奈良市の食育の主な変遷	8
2. 5つの目標	10
(1) 健康寿命の延伸につながる食育の推進	11
(2) 多様な暮らしに対応した食育の推進	11
(3) 若い世代を中心とした食育の推進	12
(4) 食文化の継承に向けた食育の推進	12
(5) 食の循環を意識した食育の推進	13
3. 計画の背景・現状	14
(1) 「食育」に関する意識調査の分析	14
(2) 各種指標および目標値	15
(3) 第3次食育推進基本計画（国）と第3期奈良県食育推進計画（奈良県）との比較	16
第2章 第3次奈良市食育推進計画期間における食育政策・事業	17
1. 奈良市における食育政策・事業	17
2. 奈良市の食に関する事業と目標	23
3. 地域との連携事業	30
第3章 【資料編】	37
1. 奈良市「食育」に関する意識調査	37
(1) 一般市民	38
(2) 高校生	55
2. 計画策定経緯	74
3. 奈良市食育推進会議委員名簿	74
4. 奈良市食育推進会議規則	75
5. 奈良市食育ネット幹事名簿	76
6. 奈良市食育推進会議庁内連絡会設置要領	77

第1章 第3次奈良市食育推進計画について

1. 計画について

(1) 策定趣旨

平成17年（2015年）6月に「食育基本法」が制定され、「食育」とは『生きる上での基本であって、知育・徳育・体育の基礎となるものであり、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実現することができる人間を育てる』ことと定義づけられました。

奈良市では、平成20年8月に「奈良市食育推進計画（第1次）」を定め、食育の周知に努めました。平成26年4月に「第2次奈良市食育推進計画」を策定し、実践的な取組を進めてきました。市内を中心に、NPO、地域活動団体、企業、農業生産者、大学、学生などさまざまな「食の担い手」の主体的なネットワークが構築されました。これにより、食育を推進する人や団体の顔の見える関係が生まれ、地域の取組が見えるようになりました。

「第3次奈良市食育推進計画」では計画の策定段階から奈良市と奈良市食育ネットが関わっており、今後はまち全体で一丸となって推進していくこととなります。

少子超高齢化の進展により、生活習慣病の予防や医療さらに農業の担い手の減少など食に関わる様々な今日的課題の解決を図りながら、まち全体の活性化を目指してまいります。



(2) 理念と基本方針

理念

「食」を通じて健全な心とからだを培い、
健康で豊かな生活が送れるまちづくり

「第3次奈良市食育推進計画」では、第1次、第2次計画の理念を引き継ぎ、第2次計画期間中で構築された「奈良市食育ネット」とビジョンを共有しながら進めてまいります。本市では第1次計画当初からまちづくりの視点で取り組んでいることに特徴があります。市民一人ひとりが主体的に取り組みつつ、まち全体の協働により総合的に推進します。

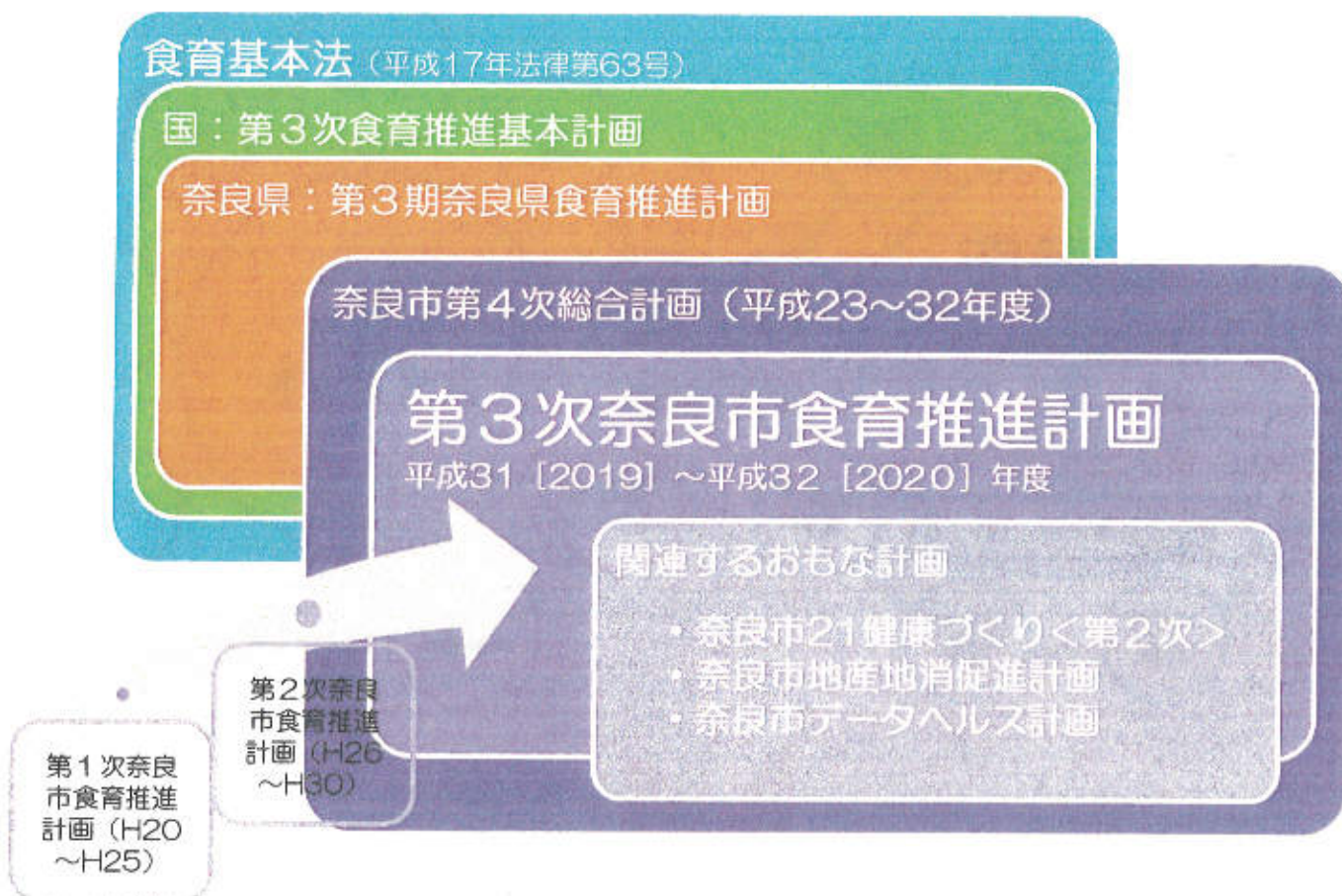
基本方針

「食」を通じみんなで育む健康な心とからだ
「食」を通じみんなが安心してらせるまち

「第2次奈良市食育推進計画」では、「食でつながる人とまち」「食で育む健やかなからだと感謝の心」を基本方針としました。

「第3次奈良市食育推進計画」では、「みんな」の視点を入れ、第2次計画期間中で構築された「奈良市食育ネット」との協働・連携の体制を軸に、さらに発展的に多様な暮らしや非常時にも安心して暮らせるよう、食を通じて取り組むことを基本方針としました。

(3) 計画の位置づけ



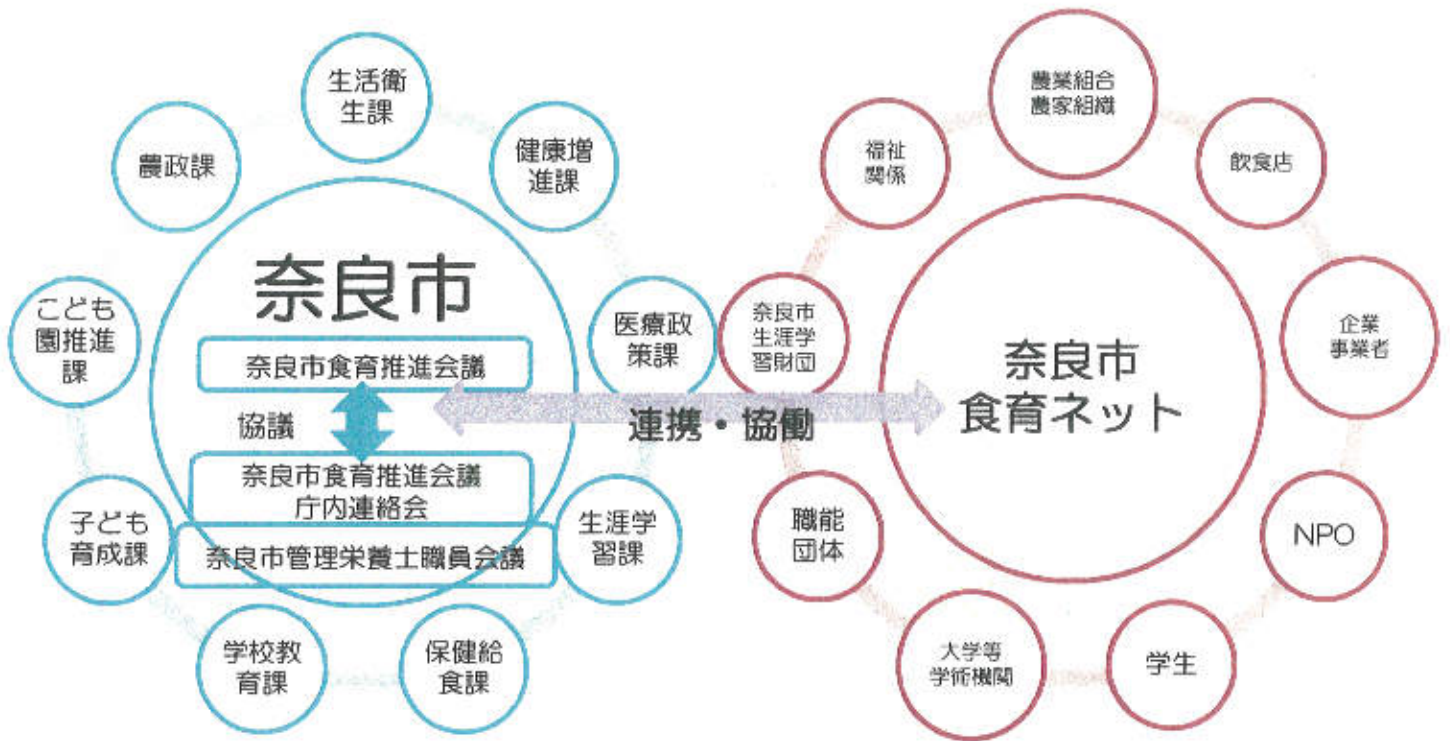
本計画は、食育基本法第18条第1項に基づく市町村食育計画として位置づけます。

国による「第3次食育推進基本計画」や県による「第3期奈良県食育推進計画」、市の「奈良市第4次総合計画」等の主な関連計画との整合性を図りつつ、食育に関する施策を実施します。

(4) 計画期間

本計画の期間は、平成31年度から平成32年度の2年間とします。ただし、計画期間中に状況の変化が生じた場合には、必要な見直しを適宜行うこととします。

(5) 関係機関による推進体制と目指す方向性



食に対する新たな創造

- ・食を通じて主体的に考え行動する
- ・奈良市に住むことへの価値観や誇り
- ・心と体が健康で過ごしていけるまち



奈良市食育推進会議

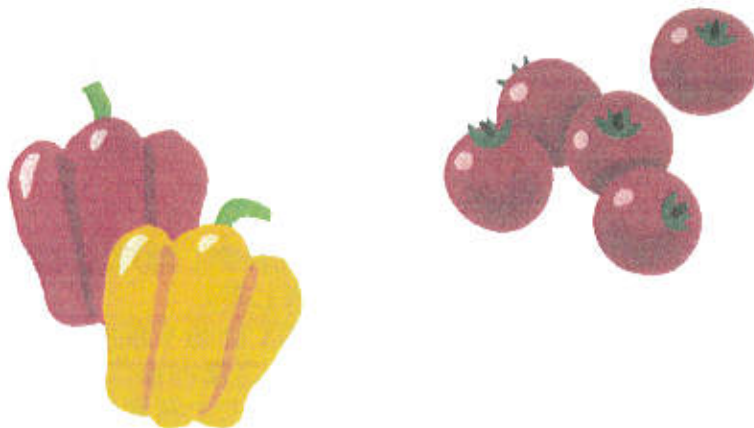
奈良市食育推進会議庁内連絡会設置要領に基づき、本市の食育推進計画の策定及び推進を全庁的な取り組みとすることを目的に開催します。特に5つの目標に資する事柄について、部署をまたがる事項についても柔軟かつタイムリーに対応できるよう随時調整し進めるとともに、庁内の顔の見える関係づくりに努めます。

奈良市食育ネット

奈良市食育ネット規約に基づき、食育活動を推進する民・産・学・官等の関係者のネットワークを推進します。地域活動の見える化、市民にとって有益な情報の共有や発信に努めます。

第3次計画では、生産者や調理人といった「つくる人」と、購入する市民、「たべる人」のつながりの見える化を進めてまいります。市民が食に関わる人や身の周りで起こっていることを認識し、それらに能動的に関わっていく機会を増やすことで感動したり意識の変化が変化し、望ましい行動につながります。

奈良市では、さまざまな食に関する団体が互いに関わりをもちながら、市民の食と向き合える環境にあります。そうした身近に「豊かな食」（熱意を持った人やおいしい食材、歴史ある食文化など）があることを知り体験することは、住むことの新たな価値観の発見や誇りを醸成することにつながります。そういった取組の継続により健康に生きていくことのできるまちを創造します。



(6) 奈良市の食育の主な変遷

平成20年	第1次奈良市食育推進計画 (H20~H25)
平成26年	平成第2次奈良市食育推進計画 (H26~H30)
平成27年4月	奈良市食育つながるネット事業開始
平成30年5月	奈良市食育ネット設立総会・交流会を開催
平成30年6月	第2回食育活動表彰 消費・安全局長賞を受賞
平成30年9月	ならの食育未来ワークショップを開催
平成31年	第3次奈良市食育推進計画 (H31~H32年度予定)

農林水産省第2回食育活動表彰での消費・安全局長賞受賞及び事例集の掲載について



第13回食育推進全国大会inおおいた 第2回食育活動表彰 ～平成30年度～ 平成30年11月12日



農林水産省主催「平成30年度 第2回食育活動表彰」地方公共団体の部で、消費・安全局長賞を奈良県内自治体で、初めて受賞しました。

これは、「奈良市食育推進会議」の実行機関である「奈良市食育つながるネット」が、平成27年度のスタート以降、食育にかかるさまざまな個人や団体と、継続的に連携・協働を図ってきたこと、本事業を通じ地域での食育活動が実践的になされたこと、結果、奈良市の食育推進に大きく貢献していることなどが評価を受けたものです。また、奈良市の取組概要が第2回食育活動表彰事例集に掲載されました。

市民が意見交換する「ならの食育未来ワークショップ」

平成30年9月16日、はぐくみセンターにおいて奈良市食育ネット参加団体や市民42名が、食に関する現状や課題を共有し、今後の取組を意見交換することで主体的な取り組みを促すことを目的に、ならの未来ワークショップを開催しました。参加者がそれぞれ意見をふせんに書き、模造紙にまとめ発表しました。今回の第3次奈良市食育推進計画は、それら意見が反映されています。



話し合ったテーマ

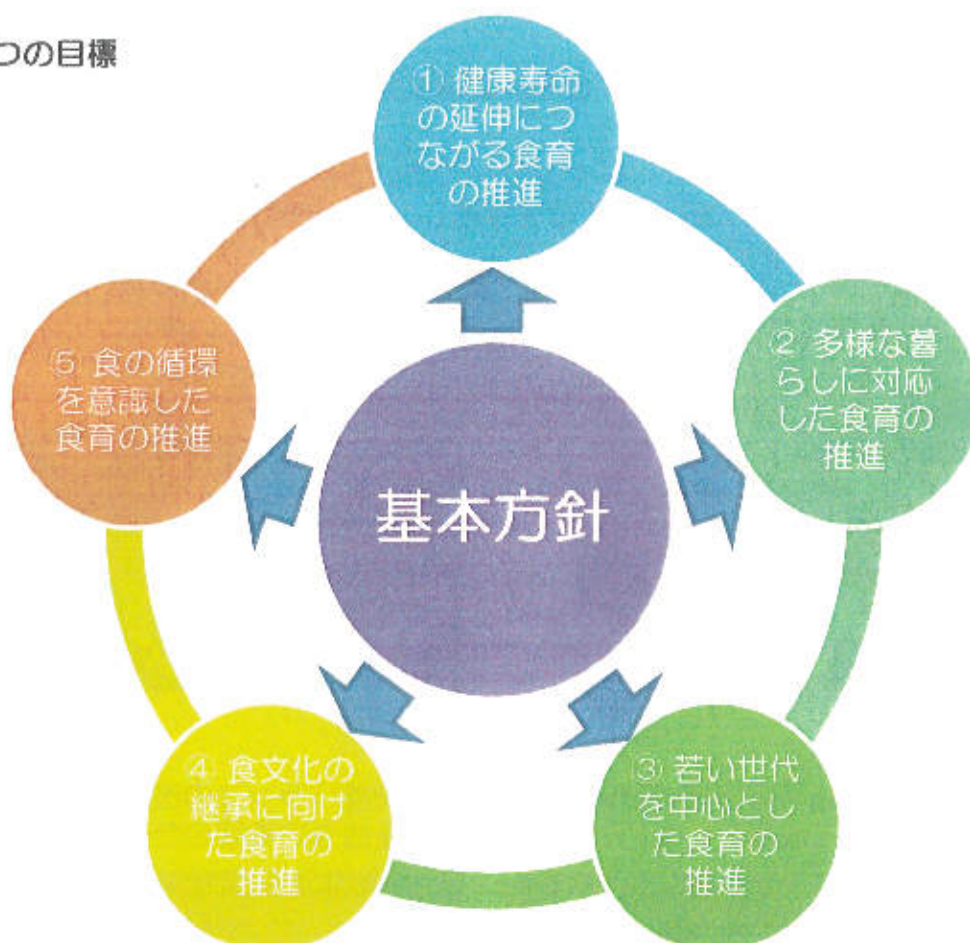
①「普段の食生活や食環境の問題点、ならの食育で大事にしたいもの」

②「栄養バランスの改善や食文化継承、地産地消の実践のために必要な取組」



普段の食生活での問題点は、時間がなく簡単なものでも済ませることによる栄養バランスの乱れや農業人口の減少や食の洋食化を背景に郷土料理や食文化継承への認識が低いこと、食環境の変化に伴う共食の減少や食に関する不安、食べ残しなどが課題にあがりました。今後必要な取組として生産者支援や地域連携を進めながらコンビニや飲食店など身近な場所での積極的なPRの場を設けること、学校や家庭での継続した取組、地域での農業や食文化体験など身近で継続的な取組、SNSを利用した広報などを通じて「作る」と「食べる」が一体となるような取組の推進が必要との意見がでました。そのために「共食」や「コミュニケーション」がキーワードになることがわかりました。全体まとめとして「一つの課題に対して何か一つの取組で全てが解決するということではなく、地域全体で少しずつ前進していくことで全体がよくなっていく」と食育ネットがまとめました。

2. 5つの目標



①健康寿命の延伸につながる食育の推進

- ・生活習慣病予防や改善のために適正体重の維持等につながる取組
- ・飲食店、食品関連事業者と連携した取組
- ・食の安全に関する取組の継続

②多様な暮らしに対応した食育の推進

- ・高齢者の低栄養予防のための栄養・食生活支援の充実
- ・多様な家庭環境に即した食支援
- ・非常時の食を想定した取組

③若い世代を中心とした食育の推進

- ・幼・保・学の切れ目のない連携した食育の体制づくり
- ・大学と連携した食育の推進

④食文化の継承に向けた食育の推進

- ・「和食発祥の地」の発信強化
- ・清酒や米、いちご、大和野菜などの発信

⑤食の循環を意識した食育の推進

- ・給食での地場産物の活用の継続
- ・食農体験活動の促進

第3次奈良市食育推進計画を推進するに当たり、第2次計画の効果を検証しつつ、国の食育政策との連動、整合性を図り、優先度も考え、5つの目標を設定しました。目標ごとに奈良市の食育の現状と照らし合わせ具体的な施策を進めます。

①健康寿命の延伸につながる食育の推進

関連計画：奈良市21健康づくり<第2次>、奈良市データヘルス計画

「健康寿命」とは日常的に医療や介護を必要とせず、自立した健康的な生活を送れる期間と言われていています。

健康づくりや生活習慣病の発症・重症化の予防を推進することにより健康寿命を延ばし、子供から高齢者まで全ての人が健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現が、優先的に取り組むべき課題です。一人一人が生活習慣病の発症・重症化の予防や改善を図っていくことは、医療費や介護費を抑制し、持続可能な社会の実現にもつながるため、関連計画や施策と連動しながら進めていきます。

また、地域全体で望ましい食環境を実現するために飲食店や食品関連事業者との連携が不可欠なため、今後も連携しながら取組を進めます。市民の食への関心や理解をより深めるため、今後は他自治体との連携も視野に取組ます。

②多様な暮らしに対応した食育の推進

関連計画：奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン、
第3次奈良市地域福祉計画、奈良市地域防災計画

我が国では、少子超高齢化が進み、世帯構造や社会環境が、変化する中で、ひとり親世帯や独居高齢者が増えており、家庭や個人の努力だけでは、健全な食生活の実践につなげていくことが困難な状況となっています。こうした状況を踏まえ、奈良市では、多様な家庭環境に即した食支援を各部署と連携し、実施していきます。独居高齢者に対しては、低栄養の予防を図るための食生活支援を検討していきます。

また、災害の多い日本において非常時を想定して普段から準備しておくことが命を守るために重要です。非常時を想定した食について取り組んでいきます。

③若い世代を中心とした食育の推進

関連計画：奈良市21健康づくり<第2次>

生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むためには、子供から成人、高齢者に至るまで、食育を推進することが重要です。

特に20歳代までの若い世代で、できるだけ早くに、食に関する知識や意識、実践を図っていくことが重要である一方で、系統立てて行えていない現状があります。

第3次奈良市食育推進計画では、若い世代を中心に、食に関する知識を深め、意識を高め、心身の健康を増進する健全な食生活を実践することができるように食育を推進していきます。若い世代が食に関する知識や取組を次世代に伝えつなげていく取り組みも行います。

中でも、教育との連動は重要です。幼稚園や保育園の頃から小学生～中学生～高校生～大学生と、関係部署及び教育機関と連携し、若い世代の食育を進めていきます。

④食文化の継承に向けた食育の推進

関連計画：奈良市まち・ひと・しごと創生総合戦略、 奈良市地産地消促進計画

地場産物を生かした郷土料理やその食べ方、食事の際の作法等、優れた伝統的な食文化が十分に継承されず、その特色が失われつつあります。このため、活発な情報発信や食育活動を通じて、食文化に関する市民の関心や理解を深めるなどにより、伝統的な食文化の保護・継承を推進していきます。

奈良の食文化の特徴は、歴史が深く奈良発祥と言われている食べものが多いことに特徴があります。こういったことを、多くの市民がまだ知らず、次世代に受け継がれていないことに課題があります。

これら食文化を新しく掘り起こし、現代にあう形にアレンジしたり、親子や仲間と奈良の食文化を体験する機会を継続しもつことが必要です。また、あわせてSNSなど様々なツールを用いた情報発信を行うことで、市民だけでなく世界に奈良の魅力を発信することができます。

農林水産省が行う「SAVOR JAPAN」認定制度の活用も検討していきます。

⑤食の循環を意識した食育の推進

関連計画：奈良市まち・ひと・しごと創生総合戦略、
奈良市地産地消促進計画

「いただきます。」「ごちそうさまでした。」ふだん食に対して抱いている、感謝の念をより身近に深めていくためには、自然や社会環境との関わりの中で、食料の生産から消費に至る食の循環を意識し、多くの関係者により食が支えられていることを自然に理解することが大切です。

第3次奈良市食育推進計画では、第1章で「つくる」「たべる」がつながっていることを紹介しています。こうした「食」と「農」の循環に特にスポットを当て、学校給食などにおける地場産物の理解とさらなる活用の推進、食農体験活動の促進を図っていきます。

特に、人口減少社会の中で、地方創生としてこうした「食」と「農」のかかわりは非常に重要です。

「奈良市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における「食」と「農」の連動した取り組みと整合性を図り、関係部署と連携し、進めていきます。



3. 計画の背景・現状

(1) 「食育」に関する意識調査（第3章【資料編】1）の分析

- ・食育の認知度は前回から上昇。関心は前回（82.4%）市内では下がっているが全国（75%）と比較して若干高い（75.9%）傾向
- ・食育の情報源として、前回よりも「インターネット」と答えた割合が増加し、「新聞」の割合に近くなっている
- ・食育を推進するための重点的な取り組みの方法について、今回も「食品の安全性に関する理解」が1位、次いで「子どもへの食育」が増加し2位（前回40.2%→今回43.9%）「環境との調和、食品廃棄の削減や食品リサイクルに関する活動」の割合が増加（19.7%→29.9%）
- ・「次世代に伝えたいこと」について、今回も「規則正しい食習慣」、「安全な食品を選択できること」、「食に関する感謝の気持ち」以下、順位の変更はない
- ・「朝食を食べない理由」の第一位「起床が遅く時間がないため」に変化はないが、第2位「仕事などで時間が不規則だから」が増加（14.2%→21.4%）
- ・「一日の野菜料理摂取量」について、今回3～4皿程度が減り（64.8%→43.4%）、1～2皿程度が増加（24.2%→45.0%）質問項目「付け合わせ程度」が「小皿1～2皿」に変わった影響を受けた可能性
- ・外食の有無について、「毎日ではないが週に数日外食をする」者が増加傾向（32.5%→37.3%）
- ・夕食の調理済食品の利用は増加傾向
ほとんど利用しない（49.1%→39.9%）
- ・自分で料理を作る人が減少 項目「ほとんど作らない」が増加（19.9%→27.6%） 項目「ほぼ毎日」が減少（58.2%→51.1%）
- ・「現在の自分の食生活の問題点」について、大きな変化なし。「間食が多い」が増加（23.9%→31.2%）
- ・「食事・食材選択時の重視する点」について、前回と概ね変化なし
- ・「地産地消」という言葉の認知度、前回から大きな変化なし
- ・「地産地消を推進する上での必要点」、前回と大きな変化なし
- ・「食文化や郷土料理・伝統食への関心度」若干減少の傾向
- ・奈良の郷土料理・伝統食で思い浮かぶものの有無は変化なし
- ・「農業体験の有無」について、「体験したことはない」（25.3%→29.0%）
- ・「食品の安全性に関する不安の有無」について「不安を感じる」、「少し不安を感じる」が若干減少したものの、高い割合で推移（85.7%→77.8%）
具体的な内訳として「輸入食品の安全性」「食品添加物の使用」「農薬の残留」上位3位変化なし、身に着けたい知識についても大きな変化なし

※対象である性別、年齢構成は概ね変化ないが、平成30年度は18歳以上であることに留意

(2) 各種指標および目標値

指標	過去値 H20年度 (2007年度)	過去値 H25年度 (2013年度)	現状値 H30年度 (2018年度)	目標値 (2020年度)	備考(出典など)
食育に関心を持っている人 (関心がある・どちらかといえば 関心がある)の割合	79.7%	82.4%	75.9%	90%以上	奈良市「食育」に関する意識調査
朝食を毎日食べる子どもの割合	89.6% (小5)	89.1% (小5)	92.4%※ (H28小5:毎日・ ほぼ毎日食べる)	増加	※奈良市子どもの生活に関するアンケート
	78.7% (中2)	85.8% (中2)	91.9%※ (H28中2:毎日・ ほぼ毎日食べる)	90%以上	※奈良市子どもの生活に関するアンケート
			85.5% (高1)	90%以上	奈良市「食育」に関する意識調査
朝食をほぼ毎日食べる人の割合	83.9%	84.9%	86.9%	90%以上	奈良市「食育」に関する意識調査
青年期(20~39歳)における朝 食をほぼ毎日食べる人の割合		71.4%	確認中	80%以上	奈良市「食育」に関する意識調査
料理や食事の用意などの手伝いを する子どもの割合(週1回以上)	87% (小5)	89.1% (小5)		90%以上	奈良市「食育」に関する意識調査
	66% (中2)	77.6% (中2)		80%以上	奈良市「食育」に関する意識調査
			67.8% (高1)	70%以上	奈良市「食育」に関する意識調査
主食・主菜・副菜を組み合わせた 食事を1日2回以上取る人の割合		45.8%	42.4%	60%以上	奈良市「食育」に関する意識調査
1日の野菜料理を食べる量 (5皿(野菜350g)以上食べる人 の割合)		7.8%	6.9%	10%以上	奈良市「食育」に関する意識調査
低栄養傾向(BMI20以下)の高 齢者の割合			22.0% (県H29)	21.2%	第3期奈良県食育推進計画
食品の安全性に関する基礎的な知 識を持っている市民の割合		67.7%	63.3%	増加	奈良市「食育」に関する意識調査
食文化や郷土料理・伝統食への関 心がある人の割合		62.3%	56.0%	70%以上	奈良市「食育」に関する意識調査
認定農業者数			126人	140人	奈良市第4次総合計画
学校給食における奈良市産の食材 を使用する割合			36.2% (H29)	増加	奈良県産食材の地産地消率(品目ベース)
食育の推進に関わるボランティア の数			2,276人	増加	市食育ネット・ボランティアインフォメーションセンター登録人数
奈良市食育ネット参加団体の数			60団体	増加	
食べ残しや食品の廃棄を減らすこ とをいつも心がけている人の割合	86.2%	84.6%	77.5%	80%以上	奈良市「食育」に関する意識調査

(3) 第3次食育推進基本計画（国）と第3期奈良県食育推進計画（奈良県）との比較

第3次奈良市食育推進計画（奈良市）			第3次食育推進基本計画（国）			第3期奈良県食育推進計画（奈良県）		
指標	現状値 H30年度 (2018年度)	目標値	具体的な目標値	現状値 H27年度 (2015年度)	目標値	指標	現状値 H30年度 (2018年度)	目標
食育に関心を持っている人 (関心がある・どちらかといえば関心がある)の割合	75.9%	90%以上	食育に関心を持っている国民の割合	75.0%	90%以上	—	—	—
朝食を毎日食べる子どもの割合	92.4% (H28小5毎日・ほぼ毎日食べる)	増加	朝食を欠食する子供の割合	4.4%	0%	朝食を毎日食べていないと回答する児童・生徒の割合	小5男子 0.9% 小5女子 0.6% 中2男子 1.7% 中2女子 1.4%	減少
	91.9% (H28中2毎日・ほぼ毎日食べる)	90%以上						
	85.5% (H30高1)	90%以上						
朝食をほぼ毎日食べる人の割合	86.9%	90%以上	—	—	—	—	—	—
青年期（20～39歳）における朝食をほぼ毎日食べる人の割合	—	80%以上	朝食を欠食する若い世代の割合	24.7%	15%以下	—	—	—
料理や食事の用意などの手伝いをする子どもの割合(週1回以上)	89.1% (H25小5)	90%以上	—	—	—	—	—	—
	77.6% (H25中2)	80%以上	—	—	—	—	—	—
	67.8% (H30高1)	70%以上	—	—	—	—	—	—
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上取る人の割合	42.4%	60%以上	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2日以上ほぼ毎日食べている国民の割合	57.7%	70%以上	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている人の割合	47.6%	70%以上
1日の野菜料理を食べる量（5皿(野菜350g)以上食べる人の割合)	6.9%	10%以上	—	—	—	成人の1日野菜摂取量	男性279g 女性263g (H28)	350g
体重指数(BMI20以下)の高齢者の割合	22.0% (県H28)	21.2%	—	—	—	体重指数(BMI20以下)の高齢者の割合	22.0% (県H28)	21.2%
食料の安全性に関する基礎的な知識を持っている市民の割合	63.3%	増加	食料の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する国民の割合	72.0%	80%以上	奈良県食料安全・安心懇話会の開催回数	2回	2回
食文化や食料管理・食育への関心がある人の割合	56.0%	70%以上	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている国民の割合	41.6%	50%以上	—	—	—
認定農業者数	126人	140人	—	—	—	新規就農者数	52人 (-28)	増加
学校給食における奈良市産の食材を使用する割合	36.2% (H29)	増加	学校給食における地場産物を使用する割合	26.9%	30%以上	学校給食において地場産品及び県内製造品を活用している割合	19.0%	増加
食育の推進に関わるボランティアの数	2,276人	増加	食育の推進に関わるボランティア団体等において活動している国民の数	34.4万人	37万人以上	食育ボランティア数	4,361人	増加
奈良市食育ネット参加団体の数	60団体	増加	—	—	—	—	—	—
食べ残しや食品の廃棄を減らすことをいっしょに心がけている人の割合	77.5%	80%以上	食料ロス削減のために何らかの行動をしている国民の割合	67.4%	80%以上	—	—	—

第2章 第3次奈良市食育推進計画期間における食育政策・事業

1. 奈良市における食育政策・事業

食育フェスタの開催

協働団体例：奈良市食育ネット、奈良市教育委員会、食品関連事業者

【事業概要・計画】

奈良市食育ネットと連携し、市内を中心に健康寿命の延伸や若い世代へつながる食育、地産地消・食文化の継承、食の循環の取り組みを行うさまざまな団体・企業・NPOのブースを出展し、市民への食育の理解を深める。

平成29年度まで保健所・教育総合センター（はぐくみセンター）を主会場に、6月の食育月間期間中に開催されていた。また、他課イベントとの併催も行っていた。今後、食育ネットの連携をふまえ、市民に広く周知・啓発できる会場設定を含め、検討を進める。



【事業の目標値】

(アウトプット指標)

- ・参加団体数
13団体（2017年）→増加
- ・食育フェスタ参加人数
980名（2017年）→1,500名

(アウトカム指標)

- ・食育についての関心度
75.9%（2018年）→90%以上

	2019	2020
食育フェスタの開催	→	

【検討すべき課題】

- ・参加団体の増加をふくめ、実行委員会形式など主体的運営のあり方について
- ・参加人数の増加に向けたはぐくみセンター以外での開催場所での開催について
- ・食育の日・食育月間以外での開催日程について

食育ネットの運営

協働団体例：奈良市、他自治体

【事業概要・計画】

2018年5月に奈良市食育ネットが設立され、奈良市内を中心に、食に関わる個人・企業・NPO等、約50者の参加があった。

今後、食育ネット内の連携をより深め、市内の食育活動をより円滑に行うため、事務局である市がコーディネート機能を強化する。

また、将来的に、食育ネット参加団体間の連携事業については、市が積極的に、後援・共催を行うため、広報啓発を中心に支援、さらに仮称食育ネット連携事業認定制度等の構築も視野にサポート体制を強化する。

食育ネット連携事業の例

「安心・快適奈良県くらしの応援団おもてなし店～高齢者フレイル予防レシピ開発」
(奈良市飲食店組合、帝塚山大学、奈良市との連携事業)



【事業の目標値】

(アウトプット指標)

・参加団体数
60団体 (2018年) ⇒ 増加

(アウトカム指標)

・食育についての関心度
75.9% (2018年) ⇒ 90%以上

	2019	2020
食育ネットの運営	➔	
【検討すべき課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報媒体の拡大、SNSツールの利用、広報支援体制の構築について ・ 仮称食育ネット連携事業認定制度の構築について 	

弁当の日 講演会・調理実習

協働団体例：奈良市食育ネット、学校、農家、
4Hクラブ、奈良の食文化研究会、食品関連事業者

【事業概要・計画】

子どもが自分で弁当をつくることで食への感謝の気持ちを深め、栄養バランスのよい食事を自ら作り出せる実践力を身につけるとともに、市民の食育への関心を深めることを目的に「弁当の日」を実施する。

2017年度は市主体実施、2018年度は食育ネット参加団体主催で実施された。

2019年度以降、食育ネット団体との連携しながら継続実施する。

地産地消や奈良市の食文化継承などのテーマとも連動した企画とし、子どもが家庭で調理やお手伝いをするのを促がします。また、学校や地域で企画される際の広報支援や必要な情報提供を行います。

◆「弁当の日」とは

子どもがつくる「弁当の日」提唱者の竹下和男さん（元香川県の小学校長）は、当時年に数回、子どもたちが自分でお弁当を作り学校に持って来るという取組み「弁当の日」を2001年に始められました。何を作るか、何を買いに行くか、調理やお弁当詰め、片付けまですべて子ども自身が行い、親や先生は、その出来具合を評価しないという約束です。子どもは「弁当の日」を通じて、自分の力や食の大切さ、親や地域への感謝に気付くこともあります。今ではこのとりくみは全国に広まり、実践校が1800校を超えています。



【事業の目標値】

（アウトプット指標）

- ・講演会参加者数（延べ数）
300人（2018年度まで）
⇒500人以上

（アウトカム指標）

- ・料理や食事などのお手伝いをする子どもの割合（週1回以上）
89.1%（小5 2013年度）→90%以上
77.6%（中2 2013年度）→80%以上
67.8%（高校1 2013年度）→70%以上
- ・栄養バランスに配慮した食生活の実践度
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を
1日2回以上摂取している人の割合
42.4%（2018年）⇒60%以上

	2019	2020
弁当の日 講演会・調理実習の実施		
【検討すべき課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・企画運営について（開催日・場所・毎年のテーマ設定など） ・広報啓発のあり方について（児童・生徒への周知） 	

青少年の農業体験機会創出に向けた支援体制

協働団体例：農家、奈良市4Hクラブ、JAならけん、小学校、中学校、高校、大学

【事業概要・計画】

青少年を対象に、農業体験機会創出の支援を行う。

PDCAサイクルに基づき内容の充実を図り、青少年が農業生産の現場を体験できる体制を構築する。

これにより、若者の農業体験機会を提供するとともに、将来の若年世代の就農意欲の喚起を図る。



【事業の目標値】

(アウトカム指標)

次期食育推進計画アンケート調査での

「農業体験」の有無のうち

「所有の田畑での栽培+貸し農園利用」

23.7% (2018年) ⇒ 30%

※30%は2018年時点での「芋ほりや観光農園での収穫」と同レベル

	2019	2020
青少年の農業体験機会創出に向けた支援体制		
【検討すべき課題】 <ul style="list-style-type: none"> • 企画運営について（開催日・場所・毎年のテーマ設定など） • 広報啓発のあり方について（大学生への周知） 		

在宅医療・介護における栄養面のサポート

協働団体例：地域包括支援センター、大学、栄養士会、福祉施設

【事業概要・計画】

地域包括ケアシステムの制度の中で、在宅医療に深く関わる栄養面について、地域連携を進める体制を検討する。平成30年度には健康医療部と福祉政策課、奈良県栄養士会奈良市支部が参加する「地域の栄養・食生活に関する連絡会議」を開催しており、これを発展させる形で高齢者の食や栄養にかかり、広報・啓発を強化する取り組みもあわせて検討する。



【事業の目標値】

(アウトカム指標)

低栄養傾向(BMI20以下)の高齢者の割合
22.0%(県H29)⇒ 21.2%



	2019	2020
栄養士会との連携による在宅医療・介護における栄養面のサポート	体制整備	
<p>【検討すべき課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉部、栄養士会、地域包括支援センターを中心とした体制整備（多職種連携） ・厚生労働省「栄養ケア活動支援整備事業」（栄養士会向け）に向けたサポート体制 		

行政事業と施策の目標一覧

事業名	担当部署	施策の目標 ※10ページを参照				
		①	②	③	④	⑤
食育に関する講座	子ども育成課	○	○	○		
各種健康づくり教室	健康増進課	○	○	○		
乳幼児健康診査時栄養指導	健康増進課	○	○	○		
公立園での食育推進計画に基づく食育推進	幼稚園・こども園・保育園	○		○	○	○
こども園・保育所給食を通じた食育	こども園推進課・幼稚園・こども園・保育園・こども園推進課	○	○	○	○	○
幼稚園・こども園・保育所職員研修	幼稚園・こども園・保育園・こども園推進課	○	○	○	○	○
菜園活動体験保育・クッキング保育	幼稚園・こども園・保育園	○		○	○	○
奈良市教育協議会食育推進部会設置による指導体制の充実	学校教育課・小学校・中学校・高等学校	○	○	○	○	○
学校での食育授業の実施	小学校・中学校・学校・学校教育課	○		○	○	○
学校給食での「古都奈良の日」「食育の日」の取組	小学校・中学校・保健給食課	○		○	○	○
PTAや保護者会と連携した研修会や懇談会	小学校・中学校	○		○	○	○
食の安全に関する情報発信	生活衛生課	○				
食育の日、食育月間の普及啓発	医療政策課	○	○	○	○	○
特定給食施設指導	医療政策課	○	○	○	○	○
奈良市糖尿病性腎症重症化予防プログラム	医療政策課	○				
糖尿病相談窓口の設置	健康増進課	○	○			
高齢者の食支援・介護予防事業	福祉政策課	○	○			
高齢者の配食サービス事業	長寿福祉課	○	○			
地域おこし協力隊	東部出張所	○	○	○	○	○
アクティブシニア農業体験事業「プチ田舎ぐらし」	農政課	○	○		○	○
出張メルカート	農政課					○
各種食育イベントの開催	医療政策課	○	○	○	○	○
食育グッズの貸出	医療政策課	○	○	○	○	○

2. 奈良市の食に関する事業と目標

関連目標：10ページ参照
関連指標：22ページ参照

・食育に関する講座の実施

子ども育成課

施策の目標：①②③

評価指標：朝食を毎日食べる子どもの割合 92.4% (H28小5)→増加

地域子育て支援センター・つどいの広場・子育てスポットすくすく広場・児童館の子育て広場・子育てスポットにおいて食育に関する講座を実施します。

・各種健康づくり教室の実施

健康増進課

施策の目標：①②③

評価指標：朝食を毎日食べる子どもの割合 92.4% (H28小5)→増加

朝食をほぼ毎日食べる人の割合 86.9%(H30) →90%以上

主食・主菜・副菜を1日2回以上とる人の割合 42.4%(H30)→60%以上

1日に野菜料理を5皿以上(350g)食べる人の割合 6.9%(H30)→10%以上

妊婦・乳幼児・成人を対象に各種健康教室において、栄養士や保健師が栄養・食生活に関する知識と情報を提供します。

・乳幼児健康診査時栄養指導の実施

健康増進課

施策の目標：①②③

評価指標：朝食を毎日食べる子どもの割合 92.4% (H28小5) →増加

成長過程で生じる食に関する問題や個々の不安に寄り添い、不安の解消や望ましい食習慣の確立を支援するため栄養指導を実施します。

発達時期に合わせた栄養・食生活に関する情報を提供します。

・公立園での食育推進計画に基づく食育推進

幼稚園・こども園・保育園・こども園推進課

施策の目標：①③④⑤

評価指標：朝食を毎日食べる子どもの割合 92.4% (H28小5) →増加

料理や食事の手伝いをする子どもの割合 89.1% (H30小5) →増加

各園は、「奈良市立こども園カリキュラム」に基づき指導計画を作成し、園全体で計画を共有し、実施・評価を行います。

・こども園・保育所給食を通じた食育

幼稚園・こども園・保育園・こども園推進課

施策の目標：①②③④⑤

評価指標：朝食を毎日食べる子どもの割合 92.4% (H28小5) →増加

食文化や郷土料理・伝統食への関心がある人の割合 56.0% (H30) →70%以上

日本型食生活を基本とし、米飯給食を通じて栄養バランスのとれた給食を提供します。また、季節に合わせて行事食等を提供します。

保護者に配布する献立表や食育だより等で保護者のニーズに応じた正しい情報を提供します。

・幼稚園・こども園・保育所職員研修

幼稚園・こども園・保育園・こども園推進課

施策の目標：①②③④⑤

評価指標：朝食を毎日食べる子どもの割合 92.4% (H28小5) →増加

職員を対象にした研修を実施し、必要な知識や情報を習得するとともに各園の取組について情報を共有し、各園での実施内容の充実を図ります。

・菜園活動体験保育・クッキング保育の実施

幼稚園・こども園・保育園

施策の目標：①③④⑤

関連指標：手伝いをする子どもの割合 89.1%(H25小5)→90%以上

園庭などで栽培収穫した野菜やいも等の食材を使い、園児が調理する楽しさや食物に感謝しながら食べる喜びを味わう保育を行います。

・奈良市教育協議会 食育推進部会設置による指導体制の充実

学校教育課・小学校・中学校

施策の目標：①②③④⑤

関連指標：朝食を毎日食べる子どもの割合 92.4%(H28小5)→増加

各学校での食育指導体制の整備を促進するための組織。公立小中学校において、毎年各校で計画をたて、実践後は報告書を作成して共有し、指導体制の充実をはかります。

・学校での食育授業の実施

小学校・中学校・学校教育課

施策の目標：①③④⑤

関連指標：朝食を毎日食べる子どもの割合 92.4%(H28小5)→増加

食文化や郷土料理・伝統食への関心がある人の割合 56%(H30)→70%以上

教科指導における食育授業・栄養教諭や学校栄養職員による食育授業
学校給食や各教科の時間などで食への理解を深める授業を展開します。
奈良の食文化への理解を深めるため、奈良の世界遺産学習と連動した授業を展開します。

- ・学校給食での「古都奈良の日」「食育の日」の取組

小学校・中学校・保健給食課

施策の目標：①③④⑤

評価指標：学校給食における奈良市産の食材を使用する割合 36.2%(H29)→増加

月に一度「古都ならの日」を設定し、奈良市産米を提供し奈良の地場産物や特産品、古くから伝わる大和の伝統野菜や郷土料理を提供します。毎月19日の「食育の日」は毎年テーマを決めて給食を通じた啓発を行います。

- ・PTAや保護者会と連携した研修会、懇談会の実施

小学校・中学校

施策の目標：①③④⑤

評価指標：食育に関心をもつ人の割合 75.9%(H30)→90%以上

家庭と協力し食育指導を進めるために、PTAや保護者会と連携して研修会や授業参観、懇談会や給食試食会を開催します。

- ・食の安全に関する情報発信

生活衛生課

施策の目標：①

評価指標：食の安全性に関する基礎的な知識を持っている市民の割合 63.3%(H30)→増加

食の安全に関する知識と理解を深めるために、まちかどトーク等を開催し、市民、食品関連事業者との情報及び意見の交換（リスクコミュニケーション）を実施するとともに、しみんだよりやホームページ等の広報活動の充実を図ります。

また、食肉の生食による食中毒の発生がみられることから、若い世代を中心とした啓発を行います。

・食育の日・食育月間の普及啓発

医療政策課

施策の目標：①②③④⑤

評価指標：食育に関心をもつ人の割合 75.9%(H30)→90%以上

庁内関係課や食育ネット団体の協力をいただき、毎月しみんだより・市ホームページに食育コラムを掲載します。市ホームページやSNS等で食育に関する情報を発信します。

・特定給食施設指導

医療政策課

施策の目標：①②③④⑤

評価指標：主食・主菜・副菜を1日2回以上とる人の割合 42.4%(H30)→60%以上

1回20食又は1日50食以上を提供する病院、高齢者施設、福祉施設、児童福祉施設、事業所を対象に年に1回以上研修会を開催し、市の現状と課題、食育に役立つ情報を提供します。給食を通じた食環境整備のため必要に応じて個別支援を行います。

・奈良市糖尿病性腎症重症化予防プログラム

医療政策課

施策の目標：①

奈良市医師会と連携し、減塩をテーマに個人への生活習慣指導と集団教室を組み合わせ実施することで糖尿病性腎症重症化予防に努めます。

・糖尿病相談窓口

健康増進課

施策の目標：①②

評価指標：朝食をほぼ毎日食べる人の割合 86.9%(H30)→90%以上

主食・主菜・副菜を1日2回以上とる人の割合 42.4%(H30)→60%以上

1日に野菜料理を5皿以上(350g)食べる人の割合 6.9%(H30)→10%以上

血糖値が高めや肥満傾向があるなど糖尿病が心配な方、糖尿病の治療を継続していない方、家族の糖尿病について相談したい方に、管理栄養士等が生活指導等を実施します。

・高齢者の食支援 介護予防事業

福祉政策課

施策の目標：①②

評価指標：低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者の割合 22.0%(県H28)→21.2%

高齢期の介護予防を目的とした介護予防教室事業を実施します。地域の栄養士・管理栄養士が講師となり、低栄養の予防や栄養バランスなどの講話を実施します。

・高齢者の配食サービス事業

長寿福祉課

施策の目標：①②

評価指標：低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者の割合 22.0%(県H28)→21.2%

在宅で65歳以上の単身世帯などで、心身の障がいや傷病等のために調理が困難で低栄養のおそれのある人を対象に、昼食をお届けし、バランスのとれた食事により健康増進を図ります。また、同時に安否の確認を行います。

・地域おこし協力隊

東部出張所

施策の目標：①②③④⑤

評価指標： 認定農者数：126人(H30) →140人

東部地域の豊かな自然をいかし、新規就農の促進や産直のおいしい農産物の販売・PRを通じた地域活性に取り組みます。生涯学習財団などと連携し、東部地域の農産物を使ったワークショップやPRイベントを随時開催します。

・アクティブシニア農業体験事業「プチ田舎ぐらし」

農政課・生涯学習財団

施策の目標：①②④⑤

評価指標： 認定農者数：126人(H30) →140人

奈良市東部地域の5つの公民館において、地域の自然・風習・食・技などに触れ、田舎の暮らしを知り、また農作業などの体験をすることにより生きがいを感じ、農業の魅力を感じていただくことを目的に、地域の食材や素材を使用した料理やものづくりを通して、「農のある暮らし」や「里山の暮らし」を学びます。

・出張メルカート

農政課

施策の目標：⑤

市民の身近な場所で地元農作物を販売することにより生産者と消費者の交流を促し、地産地消を促進します。

• 各種食育イベントの開催

医療政策課

施策の目標：①②③④⑤

評価指標：食育に関心をもつ人の割合 75.9%(H30)→90%以上

市民の食育への関心を高め実践を促がすことを目的に、市や団体との協働による食育イベントを随時開催します。

• 食育グッズの貸出

医療政策課

施策の目標：①②③④⑤

評価指標：食育に関心をもつ人の割合 75.9%(H30)→90%以上

市民や各団体の食育推進を支援し、市民運動としての食育の取組みが広がることを目的に様々な食育グッズを無料で貸し出します。

3. 地域との連携事業

- 公民館等における料理教室や食の講座

施策の目標：①②③④⑤

評価指標：

公民館事業としての料理教室などを通じ、参加者へ地域の食文化に関する理解や健康的な食体験、地域と食を通じたコミュニケーションの場を提供します。

- 奈良ヤクルト販売株式会社による食育の取組

施策の目標：①②③④⑤

評価指標：朝食を毎日食べる子どもの割合 92.4% (H28小5) →増加

朝食をほぼ毎日食べる人の割合 86.9%(H30) →90%以上

主食・主菜・副菜を1日2回以上とる人の割合 42.4%(H30) →60%以上

低栄養傾向 (BMI20以下) の高齢者の割合 22.0% (県H28) →21.2%

奈良県内で地域貢献を目的とした健康教室の実施を行っています。老人会、高齢者学級、婦人会、婦人学級での健康教室や、学校、幼稚園、保育所などの出前授業があります。

- ヘルsteam菜良による若い世代への食育の取組

施策の目標：①②③④⑤

評価指標：朝食を毎日食べる子どもの割合 92.4% (H28小5) →増加

朝食をほぼ毎日食べる人の割合 86.9%(H30) →90%以上

主食・主菜・副菜を1日2回以上とる人の割合 42.4%(H30) →60%以上

1日に野菜料理を5皿以上(350g) 食べる人の割合 6.9%(H30) →10%以上

栄養学を学ぶ大学生が、主に若い世代に向けた食育活動や地域住民への健康増進を食の面からサポートします。奈良の特産品を使ったレシピの作成や食育イベントへ参加しています。大学の学食メニュー開発、若年女性・中高年の弁当開発、学祭などを通して高校生・大学生・地域住民への食育、レストランメニュー開発なども行います。

・市民生活協同組合ならコープによる望ましい食生活や食の循環に関する取組

施策の目標：①②③④⑤

評価指標：主食・主菜・副菜を1日2回以上とる人の割合 42.4%(H30)→60%以上

食の安全性に関する基礎的な知識を持っている市民の割合 63.3%(H30)→増加

食べ残しや食品の廃棄を減らすことをいつも心がけている人の割合

77.5%(H30)→80%以上

組合員と関係団体と協働で「たべる、たいせつフェア」を開催し、食に関する情報提供や体験を通じて食について考える機会を提供します。夏休みなどに食体験ツアーや産直交流会、産地や工場見学を開催し生産者と消費者の交流を支援します。子ども料理教室も開催しています。

・コープ自然派奈良による食の安全に関する取組

施策の目標：①②③④⑤

評価指標：食の安全性に関する基礎的な知識を持っている市民の割合 63.3%(H30)→増加

食べ残しや食品の廃棄を減らすことをいつも心がけている人の割合

77.5%(H30)→80%以上

農薬、添加物、遺伝子組み換え、放射性物質など食の安心に関わる学習会、産地見学、生産者を招いての学習会、田んぼ体験、調理実習、食べ物の命と向き合う学校給食の取組を行います。

・奈良食品衛生協会による食品安全に関する取組

施策の目標：①

評価指標：食の安全性に関する基礎的な知識を持っている市民の割合 63.3%(H30)→増加

各種“食”のイベントにて食中毒防止、予防のチラシの配付を行います。食中毒予防の教育活動として幼稚園での手洗い講習会を開催します。また、食品衛生法の改正などの周知を随時行います。

・JAならけんによるあぐりスクールの取組

施策の目標：①②③④⑤

評価指標：食育に関心をもつ人の割合 75.9%(H30)→90%以上

認定農者数：126人(H30)→140人

次世代を担う子どもたち(小学生)が1年を通じて「食」と「農」をテーマに様々な農業体験を行うことで食べ物の大切さ、それを育む農業や自然の大切さを学びます。

・栄養士会による大学生への食生活相談の取組

施策の目標：①②③④⑤

評価指標：朝食をほぼ毎日食べる人の割合 86.9%(H30)→90%以上

主食・主菜・副菜を1日2回以上とる人の割合 42.4%(H30)→60%以上

大学生協などで栄養や食生活に関する相談を行います。特に一人暮らしの学生に対し、栄養に関する情報提供を行います。

・株式会社井上天極堂による奈良の伝統産業の出前授業

施策の目標：①③④

評価指標：食育に関心をもつ人の割合 75.9%(H30)→90%以上

食文化や郷土料理・伝統食への関心がある人の割合 56.0%(H30)→70%以上

小学生を中心に、奈良の伝統産業である吉野本葛や和食材などに関する工場見学や出前授業を行います。

・奈良の食文化研究会による各種食文化教室の取組

施策の目標：①②③④⑤

評価指標：食育に関心をもつ人の割合 75.9%(H30)→90%以上

食文化や郷土料理・伝統食への関心がある人の割合 56.0%(H30)→70%以上

奈良の食文化を知り体験できる各種講座や体験教室を実施します。

・大阪ガスによるだしの授業、災害クッキングの取組

施策の目標：①②③④⑤

評価指標：食育に関心をもつ人の割合 75.9%(H30)→90%以上

食文化や郷土料理・伝統食への関心がある人の割合 56.0%(H30)→70%以上

子どもたちに和食だしのおいしさを体験してもらう「和食だし体験講座」や、「地球にやさしく！くらし見直し隊」等の出張授業、親子で身近な材料で賢く手軽に非常食づくりを体験する「防災クッキング」を開催します。

・近鉄百貨店による奈良の食を体験するイベントの取組

施策の目標：①②③④⑤

評価指標：食育に関心をもつ人の割合 75.9%(H30)→90%以上

食文化や郷土料理・伝統食への関心がある人の割合 56.0%(H30)→70%以上

子育て相談所の設置により(平成31年春)、子育て支援のための情報発信を行います。また、奈良を味わい体験できるイベントの開催や販売を通じて奈良の魅力を発信します。

・ロマントピア月ヶ瀬による特産品の普及の取組

施策の目標：①③③④⑤

評価指標：食文化や郷土料理・伝統食への関心がある人の割合 56.0%(H30)→70%以上
認定農者数：126人(H30)→140人

農林漁業体験実習館や伝統工芸伝承教室を利用して月ヶ瀬の特産品である梅やお茶などの農産物にまつわる様々な催しや体験を年間を通して実施します。また、食を通じたコミュニケーションの場を提供します。

・エヌアイプランニングによる奈良食べる通信の取組

施策の目標：①②③④⑤

評価指標：食育に関心をもつ人の割合 75.9%(H30)→90%以上
認定農者数：126人(H30)→140人

「食べる通信」はつくる人と食べる人の距離を縮め、豊かな食のつながりを作るため、つくる人の哲学や人生のストーリー、食材が出来るまでの流れを紹介した誌面と、その人が作った食材がセットで届く“食べ物付きの情報誌”です。さらに一歩進んで、つくる人と直接つながる機会も提供しています。

・フードバンク奈良による食品ロスの削減・生活困窮者への食料支援

施策の目標：①②③④⑤

評価指標：食べ残しや食品の廃棄を減らすことをいつも心がけている人の割合
77.5%(H30)→80%以上

だれもが食を分かち合い心豊かに暮らしていける社会を創ることを目的に、市場に出すことができなくても、十分に食べられる安全な食品を企業や農家等から提供してもらい、福祉施設や生活困窮者に届けるとともに社会の食品ロスの削減をはかります。

- ・帝塚山大学シニアサポートHARUによる高齢者食生活支援

施策の目標：①②

評価指標：低栄養傾向（BMI20以下）の高齢者の割合 22.0%(県H28)→21.2%

高齢者を対象とした栄養・運動教室の開催各サロン等における栄養講話や体力測定などを実施しています。

- ・奈良市飲食店組合による安心快適奈良くらしの応援団の取組

施策の目標：①②③④

評価指標：主食・主菜・副菜を1日2回以上とる人の割合 42.4%(H30)→60%以上
栄養傾向（BMI20以下）の高齢者の割合 22.0%(県H28)→21.2%

地域のご高齢の方や介護を受けておられる方など、外出が困難な方が安心してお店に来ていただけるよう支援します。また、お子様連れでも気軽にはいれるお店をめざします。そのようなおもてなし店を増やします。

- ・大塚製菓株式会社による健康支援の取組

施策の目標：①②

評価指標：朝食をほぼ毎日食べる人の割合 86.9%(H30)→90%以上

朝食、食生活改善などの栄養情報を提供し、製品を通じた地域の健康を支援を行います。熱中症対策及び予防を目的とした水分補給に関する講座なども行います。

- ・奈良フードシェッドファーマーズマーケットの取組

施策の目標：①②③④⑤

評価指標：食育に関心をもつ人の割合 75.9%(H30)→90%以上
認定農者数：126人(H30)→140人

奈良フードシェッドは、地域の小さな有機農業のサポートや持続可能な社会づくりへの貢献を目的に、一般に流通しにくい環境保全型農業の認知普及や「食」と「農」の大切さを広げるため有機農業を生き方として求め、歩んでいる人が集まるフードシェッドファーマーズマーケットを開催しています。

こども会では、みんなでこども向けの農体験ワークショップをしています。

持続性の高い生産工程、環境負荷を最小限に抑えた栽培方法で作られた農産物や加工品が集まり、それを直接消費者に広め理解していただくことで、環境保全型農業の活性化や地域の自給率アップを目指します。また、新規就農者や生産者の持続的経営へと繋げていきます。日常の持続可能な社会づくりに貢献します。